

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年6月30日現在

### 今月の重点活動

#### ■ トマト 就農支援センター研修生修了式

6月11日に県就農支援センター第4期生の修了式が開催され、修了証書及び記念品授与の後、4名の研修生が決意表明を行った。式には、地元選出の県会議員をはじめとする来賓並びに関係機関職員も多数出席し、研修生の門出を祝して激励の言葉が贈られた。

6月8日には研修報告会があり、それぞれの研修生から研修で学んだことや今後の営農計画などが発表された。特に、今回初めて、トマト農家の後継者として研修を受けた研修生は、「自分のこれからのトマト経営が、後継者のモデルとなるように努力したい」と抱負を語った。

農業普及課は、技術指導及び関係機関との連携により、早期の営農定着と経営安定に向けた支援を行う。



【4名の門出を祝して】

### 売れるブランドづくり

#### ■ いちご 若手生産者の会及び養老町いちご連絡協議会栽培研修会

6月4日、西濃地域いちご生産者若手の会による交流会が開催された。全農担当者から濃姫・美濃娘の販売環境について説明を受け、情報交換を行った。農業普及課からは、新規に登録された農薬の情報提供を行った。

また、6月19日には池辺いちご組合と養老西部いちご部会の合同栽培研究会が開催された。研究会では、農業普及課から29年産の経過のまとめと土壌病害対策について情報提供するとともに、育苗に向けた栽培管理講習を行い、防除暦の配布及び防除対策の徹底を図った。

#### ■ なす 栽培研修会・独立ポット耕栽培・なす塾

6月15日、安八町牧園芸組合なす部会では目揃会を、6月18日、海津なす部会では目揃会及びGAP研修会を開催した。農業普及課からは6～7月の栽培管理について講習を行い、防除暦を配布して防除の徹底を図った。特に、海津なす部会では、認証GAPの取得に向けて部会の意識統一を図る研修会を行った。

農業普及課の事業として実証展示している独立ポット耕栽培については、6月5日にベンチ上にタイベックシートを展張し、夏期の培地温を抑制する試験を開始した。中旬以降草勢の低下が見られたため、施肥量を増やしている。6月18日の海津なす部会目揃会にて、生育状況の中間報告を行い、部会内での情報共有を行った。部会員からは液肥管理のポイント等について質問が出た。

また、6月27日にはJAにしみのが主催する「なす塾（塾生18人）」に協力し、養老育苗センター内のなす独立ポット耕ほ場にて定植作業を体験してもらった他、なす栽培における経営試算や農薬の適正使用に関する講習を行った。



【タイベック展張の様子】

### ■ 水稲 機能性成分米の田植え実施

養老町で、機能性成分米ビジネスモデル構築支援事業の実証ほを今年度も引き続き設置した。昨年度に引き続き、巨大胚芽米「はいごころ」を栽培実証し、5月25日に田植えが実施された（栽培面積20a）。昨年に比べ苗の出芽は良く、やや密植で栽培することとした。

農業普及課は生育・収量調査を行い、当該品種の安定生産に向けた栽培方法を検討していく。



【移植作業】

### ■ 水稲 密播疎植の移植実施

神戸町・安八町で5月に播種を行った水稲密苗の移植作業が行われ、農業普及課はJAと共に支援を行った。神戸町の(有)泉八では、「ほしじるし」で約1.5ha、「ハツシモ」で約2haの密苗移植（疎植ではないが、密播によって苗箱数が減らせる）が行われた。生産者は、密播疎植による育苗・移植作業での省力化を実感しており、来年度以降の本格的な導入が検討されている。今後、生育及び収量等の調査を実施し、密播疎植による水稲生育への影響を調査するとともに、削減されるコスト等を調査し、密播疎植の拡大を支援する予定である。



【密苗の移植作業】

### ■ ブロッコリー 平成30年産に向けて

6月29日に、大垣市西部研修センターにおいて、JAにしみのブロッコリー大垣部会役員会が開催された。農業普及課からは昨年の生育状況、品種別の問題点について説明し、30年産の品種組み立て等について提案した。また、今後も安定出荷に向けた新品種等の検討を行う。ここ数年、長雨・台風等の気象による影響が作付不安材料となっているため、作付準備前にも研修会を行い、ほ場準備・品種構成について再度検討を行うこととした。

### ■ 甘長ピーマン 生産安定に向けた支援

本年産は、春先からの気温が平年より高く推移し、気温が低かった前年産と比較して出荷量が安定して多い状況となっている。しかし、気象の変動は激しく、高温・強風による障害果（果皮の黒紫化、腐れ、曲り）の発生、うどんこ病やハダニ、アブラムシ、アザミウマの発生も増加している。農業普及課ではほ場巡回を強化し、注意喚起および防除指導を行っている。露地栽培でも障害果の発生が増えており、その対策について、6月8日にJAと連携して現地研修会での指導を行った。部会役員のはほ場において行っている赤色ネット、天敵昆虫を用いた害虫防除の試験では対象害虫の発生が抑えられており、効果が得られている。今後も定期的に調査を続けていく。

### ■ GAP 神戸町の経営体がJGAPの審査を受ける

6月5日、神戸町で葉ねぎの生産、出荷を行う(株)アグリ・F・神戸が、JGAPの外部審査を受けた。当日は、各種記録書類及び栽培ほ場、出荷調製施設の管理、運営状況について、審査機関から派遣された審査員とともに現地確認を行った。今後、指摘があった是正点を改善し、JGAP認証を目指すこととなる。

農業普及課は、JAにしみのと連携して活動支援を行う。



【審査結果及び是正点の改善について話合う】